

梶井基次郎の作品を考察する～作品と人生の相関関係を探る～

国語班:砂原 陽向、蜷川 明里、倉田 開

Abstract

The purpose of this study is revealing that relationship between the life of Motojiro Kji and his literary works. The experiment showed that some were works which are closely related to his private life during writing, others were works which themed his experiments of the past. Also, it showed that the relationship between life and work was various. This study concludes that events of his life affect his works in many ways.

要約

本研究の目的は、梶井基次郎の人生と作品にどのような関係があるのかを明らかにすることである。調査によって、執筆時期の私生活と関わり深い作品や、かつて経験したことを題材にした作品があったりとその人生と作品の関わり方は多様であることがわかった。従って本研究では、梶井の人生における出来事は様々な形で作品に影響を与えていると結論付けられた。

1. はじめに

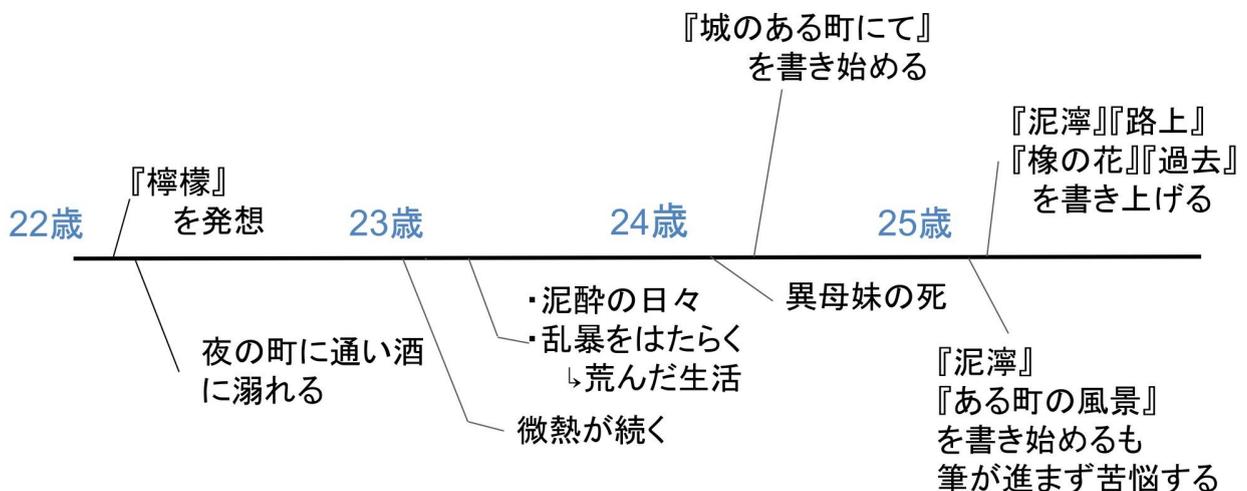
梶井基次郎という名は世間でよく知られているが、短命で活動期間が短く、作品が少数である ことを知り梶井に興味を持った。何故、短期間の活動でここまで名を残せたのか。また、梶井が生きた時代の文豪と呼ばれる人々には人生と作品の内容が共通している例が多く見られる。そこで梶井の作品と人生には共通する点があり人生が作品に影響を与えているのではないかと考えた。そこで我々は、梶井の作品には彼の価値観や心情が表れており、彼の人生と作品には相関関係があるのではないかとこの仮説を立てた。

2. 研究手法

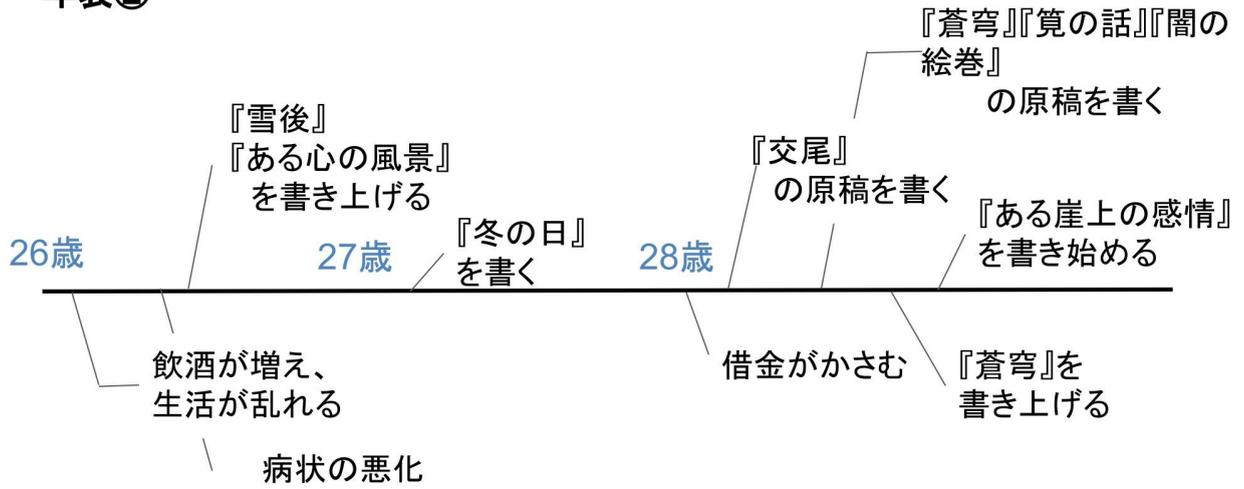
- ① 梶井の作品の執筆時期を調査する。
- ② 執筆時期が早いものから順に作品を読み、特徴や内容をまとめる。
- ③ 評伝から梶井の人生について調査する。
- ④ 執筆時期の私生活を年表にまとめ、相関関係を調べる。

3. 結果

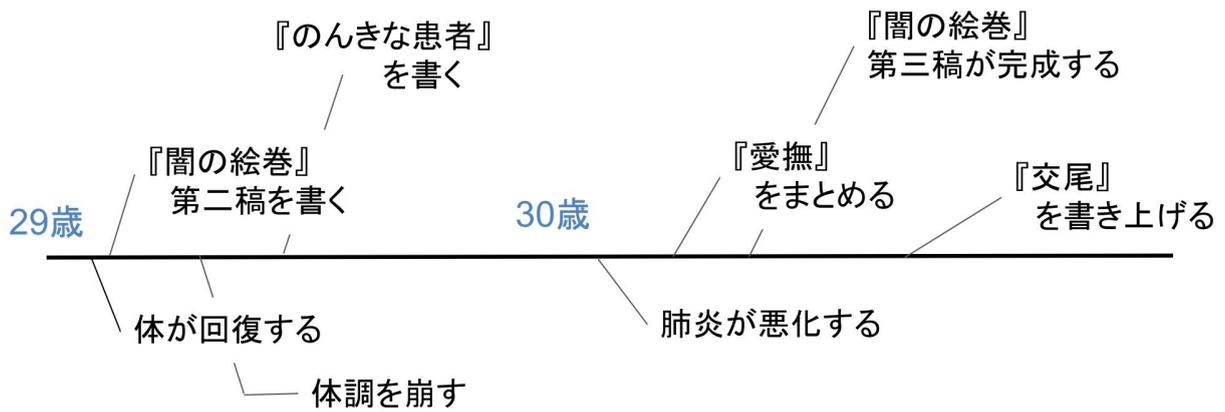
年表①



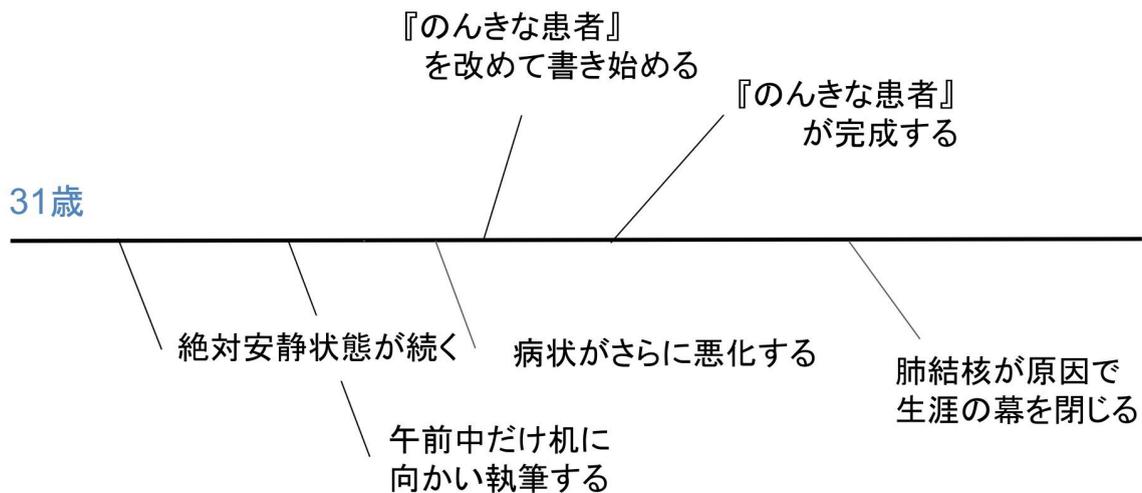
年表②



年表③



年表④



異母妹の死を描く『城のある町にて』は妹を病気で亡くした直後に執筆が始められている。作品の制作が滞っている怠惰な人物の話である『泥濘』を執筆している時期は、梶井本人も筆が進まず苦悩している。また、晩年に執筆された『のんきな患者』は主人公が重度の結核を患っている。これらの作品は、人生が影響していると言える。その他の作品については、梶井が人生を通して経験したことを題材にした作品やあまり関わりが見られない作品など様々なものがみられた。

4. 考察

結果より、梶井の人生と作品には相関関係があるという仮定は多くの作品で成立した。ただし、執筆時期の私生活と関わり深い作品や、かつて経験したことを題材にした作品があったりとその人生と作品の関わり方は多様であった。また、人生との関係を感じることでできないフィクションであると感じる作品もあった。また梶井の人生について調査することで肺結核を若くから患いながら墮落した生活を送るも根は強い人であったのではないかと考察した。

調査により、全ての作品の内容に彼の私生活が影響している訳では無いが、彼の生涯、特に人生においてのターニングポイントと言える出来事は作品に影響していると考えられる。

5. 結論

考察より、梶井の人生における出来事は大きく作品に影響を与えていると我々は結論付けた。今回の研究で関わりを感じる事が出来なかった作品もさらに読み込み、梶井の人柄などまで理解していくと彼の人生で感じた出来事に基づく価値観が現れているのではないかと思う。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

大谷晃一(1989)『評伝 梶井基次郎』河出書房新社

梶井基次郎(1986)『梶井基次郎全集 全一卷』ちくま文庫